

九段中等教育学校に入学を希望する皆様へ

**保護者の皆様と新入生からのメッセージ
～学校選択アンケートから～**

**令和4年度
千代田区立九段中等教育学校**

目 次

令和4年度入学 19回生	
保護者対象学校選択アンケート集計結果	4
新入生アンケート集計結果	6
保護者の皆様からのメッセージ	
区分 A	7
区分 B	12
新入生からのメッセージ	20

令和4年度入学 19回生
保護者対象学校選択アンケート集計結果
新入生アンケート集計結果

保護者対象学校選択アンケート集計結果

令和4年度入学19回生 回収129、回収率77%

<小学校時代の学習塾や通信教育などの利用> (複数回答有)

	区分A60人中		区分B69人中		計129人中	
学習塾	59	98%	68	99%	127	98%
通信教育	12	20%	22	32%	34	26%
家庭教師	4	7%	2	3%	6	5%
いずれの利用もなし	2	3%	0	0%	2	2%
計	77		92		169	

<学習塾の利用目的> (複数回答有)

	区分A59人中		区分B68人中		計127人中	
公立中高一貫教育校対策	49	83%	48	71%	97	76%
私立校受験対策	10	17%	26	38%	36	28%
学習の機会を増やすため	6	10%	9	13%	15	12%
未回答	1	2%	4	6%	0	0%
計	66		87		148	

<学習塾の利用期間> (複数回答有)

	区分A59人中		区分B68人中		計127人中	
半年以内	3	5%	3	4%	6	5%
半年～1年	19	32%	9	13%	28	22%
2年	17	29%	21	31%	38	30%
3年	14	24%	22	32%	36	28%
それ以上	5	8%	10	15%	15	12%
未回答	1	2%	4	6%	5	4%
計	59		69		128	

<通信教育の利用目的> (複数回答有)

	区分A12人中		区分B22人中		計34人中	
公立中高一貫教育校対策	5	42%	6	27%	11	32%
私立校受験対策	2	17%	3	14%	5	15%
学習の機会を増やすため	7	58%	11	50%	18	53%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計						

<通信教育の利用期間>

	区分A12人中		区分B20人中		計32人中	
半年以内	0	0%	0	0%	0	0%
半年～1年	3	25%	7	35%	10	31%
2年	2	17%	5	25%	7	22%
3年	3	25%	3	15%	6	19%
それ以上	4	33%	5	25%	9	28%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

<家庭教師の利用目的> (複数回答有)

	区分A4人中		区分B0人中		計4人中	
公立中高一貫教育校対策	3	75%	0	0%	3	75%
私立校受験対策	1	25%	0	0%	1	25%
学習の機会を増やすため	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計	4		0		4	

<家庭教師の利用期間> (複数回答有)

	区分A4人中		区分B2人中		計6人中	
半年以内	2	50%	0	0%	2	33%
半年～1年	1	25%	0	0%	1	17%
2年	1	25%	1	50%	2	33%
3年	0	0%	0	0%	0	0%
それ以上	0	0%	1	50%	1	17%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計	4		2		6	

<模擬試験の利用>

		区分A60人中		区分B69人中		計129人中	
公立中高一貫模試	利用した	51	85%	60	87%	111	90%
	利用しない	9	15%	9	13%	18	15%
	未回答	0	0%	0	0%	0	0%
私立中学模試	利用した	20	33%	37	54%	57	46%
	利用しない	40	67%	32	46%	72	59%
	未回答	0	0%	0	0%	0	0%

<本校のことを知った時期>

	区分A60人中		区分B69人中		計129人中	
6年秋以降	0	0%	1	1%	1	1%
6年夏以前	0	0%	10	14%	10	8%
5年	2	3%	16	23%	18	14%
4年	2	3%	11	16%	13	10%
それより以前	56	93%	21	30%	87	67%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

<本校の受験を決めた時期>

	区分A60人中		区分B69人中		計129人中	
6年秋以降	7	12%	17	25%	24	19%
6年夏以前	8	13%	20	29%	28	22%
5年	21	35%	20	29%	41	32%
4年	10	17%	8	12%	18	14%
それより以前	14	23%	4	6%	18	14%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜本校の受検を決めた理由＞（3項目まで）

	計129人中	
教育方針	70	54%
交通の便	52	40%
学校周囲の環境	20	16%
在校生の様子	19	15%
偏差値	11	9%
施設	32	25%
授業の様子	6	5%
教職員の熱心さ	12	9%
共学校	17	13%
部活動	12	9%
給食があるから	14	11%
学習内容	28	22%
知人のすすめ	9	7%
学費	20	16%
キャリア教育	21	16%
学校行事	9	7%
制服	3	2%
本人の強い希望	43	33%
兄・姉が通っている	11	9%
英語教育	47	36%
大学進学実績	15	12%
担任の先生の勧め	0	0%
その他	3	2%

＜私立校との併願＞

	区分A58人中		区分B65人中		計123人中	
した	27	47%	53	82%	80	65%
しなかった	31	53%	18	28%	49	40%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜私立の併願校数＞

	区分A27人中		区分B53人中		計80人中	
1校	13	48%	9	17%	22	28%
2校	8	30%	14	26%	22	28%
3校	3	11%	13	25%	16	20%
4校	2	7%	11	21%	13	16%
5校以上	1	4%	6	11%	7	9%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜本校の志望順位＞

	区分A27人中		区分B53人中		計80人中	
第1希望	21	78%	44	83%	65	81%
第2希望	4	15%	8	15%	12	15%
第3希望	2	7%	1	2%	3	4%
第4希望	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜現時点でのお子様の進路希望＞（複数回答可）

	計129人中	
国公立大学	117	91%
私立大学	71	55%
医歯薬系大学	19	15%
短期大学	0	0%
専門学校	1	1%
その他	6	5%
計	214	

新入生アンケート集計結果

令和4年度入学19回生

＜興味を持った都立中高一貫教育校＞ (複数回答可)

	区分A80人中		区分B81人中		計161人中	
都立白鷗高等学校附属中学校	13	16%	52	64%	65	40%
都立両国高等学校附属中学校	16	20%	28	35%	44	27%
都立富士高等学校附属中学校	1	1%	9	11%	10	6%
都立大泉高等学校附属中学校	1	1%	6	7%	7	4%
都立武蔵高等学校附属中学校	8	10%	4	5%	12	7%
都立小石川中等教育学校	34	43%	39	48%	73	45%
都立桜修館中等教育学校	4	5%	8	10%	12	7%
都立南多摩中等教育学校	0	0%	1	1%	1	1%
都立立川国際中等教育学校	0	0%	3	4%	3	2%
都立三鷹中等教育学校	3	4%	4	5%	7	4%

＜併願校＞

共学校	受験者数	男子校	受験者数	女子校	受験者数
郁文館	9	麻布	1	浦和明の星女子	1
市川	2	足立学園	1	大妻	1
浦和実業	8	海城	1	大妻中野	1
大宮開成	1	学習院	1	吉祥女子	2
開智日本橋	8	暁星	1	共立女子	1
かえつ有明	1	慶應義塾普通部	2	光塩女子学院	1
國學院久我山	2	攻玉社	1	十文字	1
駒込	13	城北	2	湘南白百合	1
栄東	17	城北埼玉	2	女子学院	9
佐久長聖	1	巣鴨	1	白百合学園	1
実践学園	1	成城	1	東京家政学院	5
芝浦工業大学付属	4	世田谷学園	2	東京女学館	1
渋谷教育学園渋谷	2	高輪	1	富士見	1
渋谷教育学園幕張	1	北嶺	1	雙葉	1
昭和学院	1	本郷	3	山脇学園	1
昭和秀英	1	武蔵	2		
淑徳	1	明治大学付属中野	1		
順天	1	早稲田大学高等学院・中学部	1		
成城学園	1	早稲田実業	1		
聖徳学園	1				
西武文理学園	1				
専修大学松戸	3				
千葉明德	1				
帝京	1				
東京成徳大学	1				
桐光学園	1				
東洋大学京北	3				
広尾学園	3				
広尾学園小石川	2				
普連土学園	1				
宝仙学園	1				
明治大学附属中野八王子	1				
安田学園	10				
早稲田佐賀	3				

保護者の皆様からのメッセージ

区分 A

受検勉強だけでなく、遊びや興味のあることも大切にしながらの受験でしたが、合格することができました。

学校の様子を調べたり、九段祭を観たりしました。それが学習意欲を高めるモチベーションにつながったと思います。

時間内に作文を書き切れる練習をたくさんしてください。過去問もしっかり解いてください。

息子本人の強い希望で受検をすることにしました。将来どうしたいのか、学校への入学がゴールではなくその先に何があるのか、何をしたいから九段中等学校に入りたいのかを繰り返し問いました。そのため、自分で受検するということを決めた気持ちから、本人なりにペースを作りながら受検を迎えることができたと思います。最後まで部活や習い事も続けたことで自信になったようです。結果ご縁を頂きましたが、何度も家族で方針を話し合ったことで最後までブレずに臨むことができました。ご家族で方針を話し合うことはとても大切だと思います。

6年生になると子どもが不安になり立ち止まることがあると思います。壁にぶつかった時、苦しんでいる時に一緒に解決してあげてください。自信を持てる道と一緒に探してください。

自分がこの学校にいきたい！という気持ちを大切に頑張ってください。

中高一貫教育校対策は1年でも何とかなります。親が不安に思っても本人にはそれを見せず、本人の希望を尊重して支えることが大切だと思います。

10時には寝かせ運動の習い事も週1で通い、気分転換もしっかり取る等、体調管理に気をつけました。勉強は自分で計画を立ててから始めました。

受検準備(特に作文)は、私は何が好きなのか、周囲の方々に何ができるのかなど、自分自身を発見する日々だったと思います。テストの点数・結果はもちろん大事ですが、人、自然、世界への興味を親子で一緒に楽しむことができた貴重な時間でした。

なかなか実践できませんでしたが、家庭においては日頃疑問に思ったことを親子で考えるという姿勢が大切だと思います。

充実な小学校生活を送りながら学習も怠慢しないこと。

授業時間も多く英語教育にも熱心で、公立でありながら大変充実したカリキュラムなので、入学できて本当によかったと思っています。部活にも参加し青春を謳歌して欲しいです。

繰り上げ合格です。外部試験では、毎回 D 判定でしたが適性検査という少し特殊な試験のためか運もあり入学できました。これから目指す方も、判定だけで諦めずに受検をされたら良いと思います。

自分の考えをしっかりと伝える事に慣れて、目標を定め、過去問を繰り返し、自信をつけていく事が大切だと思います。

記述式の問題や、作文への対策は怠るべきではない。

ペーパーテストのみ重視ではなく、リーダーシップや積極性を磨くような人間性を育てるよう、小学生から積極的に行動出来るようにアドバイスが出来るといいと思います。

学習塾は九段中等教育学校に特化したコースに通うことをお勧めします。また、過去問を何回も解き、自分の苦手な問題がどんなものなのか、何度でも見直せる様にするのが良いと思います。

小学校の学校生活を大事にする。設問をしっかり理解して問題を解く。

模試などで自分の弱点が分かったら毎日、苦手ジャンルの問題に取り組む。作文では自分の体験を盛り込むように指定されることが多いのでテーマごとに体験を考えておく。復習ノートを作り、間違った問題をおさらいする。

受検には報告書の提出も必要とされているので、小学校生活を積極的に目一杯楽しむことが大切かと思っています。

学校選択は偏差値のみではなく、心身ともに子どもを成長させてくれる観点で選びました。

区分 A のため受検勉強に費やした時間はそれほど多く無かったかもしれませんが、適性検

査の勉強は詰め込み式の勉強とは違って考える力をつけられたと思います。

塾選びは中高一貫校に特化した塾を選び学んで来ました。コロナ禍で思うように通塾できず焦る日々でしたが、塾とのリモート授業のやり取りで乗り超えて来ました。六年生の秋まで模試ではC判定でしたが、そこから伸び出し最後の模試で一位を獲得しました。最後まで諦めない事が合格へ繋がると思います。

将来を真剣に考えられる子供を育てたい、この親に共通する願いを叶えられる学校だと思います。無理せず、子供の立ち向かって行く姿を温かく見守っていけば、道は開けると思います。

私立受験向けの塾に通わせていましたが、そこでしっかり難関校対策をすることが結果的に九段対策になりました。私立との併願も難しくないと思います。

当日の検査時間が長いので、それに対応できるよう準備をされてください。また、健康が1番ですので、適度に遊び、リフレッシュし、楽しく勉学に励んでください。

私学対策の勉強をしていれば準備できると思っておりましたが、秋ぐらいに「急に今年から長文作文出たらしよう」と公立中高一貫校向けの作文をとったり、冬休み後になってネットで公立中高一貫校対策の赤い問題集と青い問題集を買って仕上げたりしました。私学の純粋に学力をはかるような問題よりも、答え方にコツがあるような問題が多いように感じました。直前期はいろいろ焦って不安に思いあれもこれもと頑張らせてしまいましたが、合格をいただけたので、「このくらいやって丁度よかったんだ！頑張ってたね」と話してます。

小学校のテストはほぼ全て満点の子でしたが夏に過去問をやらせたら 3 割もいかず驚きました。塾が効果的だったのかは疑問ですが、少なくとも何も準備せずに入るのはかなり困難だと思います。

普段の学校生活や家庭生活の中で出会う事柄に関心を持ち、一つ一つ掘り下げて考えてみる事が大切だと考えています。その事が受験準備に繋がります、その後の人生の糧になると考えるからです。

九段中等教育学校を受験しようと思い、4年生から九段中等教育学校に特化した塾に通いました。入学して間もないですが合格して良かった、入学して良かったと思うことばかりです。

私立学校の入試とは試験対策が異なると思いました。

受検準備は、本人が受検する事を決めた 5 年生の終わってから約一年、中高一貫校対策の塾に通っておりました。学習内容は、九段に限らず他県や私立校等も合わせて過去問を繰り返し解いていました。宿題はそれほど多くない塾でしたので習い事等は続け、好きな事をする自分の時間も大切に日々の生活を送っていました。学校選択は学校公開やオンラインで数校参加し、本人の意思を第一に決めました。入学してから、何をしたいか、学びたいか、将来どうしたいか等、日頃から話し、前向きに小学校生活も送る事が大切だと思います。まだまだコロナ禍で大変な事、制限される事があると思いますが、本人の意思を大切に楽しい学びを小学校生活そしてご家庭でも積み重ねていって欲しいと思います。

受検合格をゴールにせず、入学してからのことを考えて勉強することが大切。

作文をたくさん書いて書く力をつける。過去問にたくさん取り組み頭を柔らかくすることだと思います！

小 5 夏に私立受験を決め、小 6 秋に九段中等の受検を決めたため、九段中等向けの模試は 1 回のみ、過去問も 5 年分を 1 回ずつ（作文は 10 年分を 2～3 回）しかできず、試験当日も大失敗してしまったのですが、何とか合格を頂けました。私立の思考型・長文記述型の過去問をやりこんでいたことや、学校で地味ながらも真面目にがんばっていたことが役立ったのではないかと思います。どんなに周りから出遅れても、試験当日大失敗しても、最後まで諦めないで頑張り続ければ良い結果が出ると思います。がんばってください。

人それぞれなので子供にあった塾選びが大切だと思います。子供の希望が強かった為こちらの学校一本で受検いたしました。

自身のペースで頑張ってください。

6 年生の一年が受験勉強だけにならない様、家族やお友達との時間も大切にしてほしい。

我が家が都立一貫校の中でも、九段中等教育学校を第一に志望した理由は、生活、学習の面で無理なくゆとりを持って過ごせる立地にあり、豊かな教育環境を備えた学校をという点です。また実践を重んじ、何事にも前向きに取り組むという教育方針も我が子に向いていると感じたこともあります。学習塾には 4 年生から通わせましたが、最初の 2 年間は主な基礎固めで、6 年生の秋以降より過去問を繰り返し解くこと、作文対策に重点を置きました。親としては健康面には気を付け、受験前でも就寝や食事時間を削ることなく、なるべく日常と変わらない生活をさせることを心掛けました。受験前の子供にはストレスが何より心身

に良くないと思いますので、過度な干渉はせずいつも通りに過ごせたことが良かったと後に子どもも話しておりました。

適性検査は慣れが必要なので、塾・模試やテキストなどを活用して慣れておくことが大事かと思います。

親が勉強しろと強制している頃は全く勉強する様子がありませんでした。子供を信じて出来るだけ口を出さないようになってから、自ら率先して学んでいたように思います。また通っていた塾の先生の助言にも大変救われたようです。親の希望、本人の意思、周りの先生や友達の影響、色々重なっての受検合格でした。頑張ってください。

作文の練習。 過去問を解く。

コロナ禍で塾の公立中高一貫コースが統合されて通いづらい場所になり、通いやすさで個別指導にしたのですが、公文で計算は中学、漢検は2級を取得し、学習貯金は部分的だったので、弱点の図形とZ会の文字数の多い作文が個別指導で克服でき、結果的には個別指導にしてよかったです。

区分 B

子供が九段の適性検査から帰ってきたときは、「すごい、楽しかった！」と言っていました。問題も良かったのだと思いますが、受検を楽しむくらいの気持ちで取り組めればいいのかと思います。

コンパスを使えるように練習しましょう。

本人が強い意志を持って、諦めずに頑張ること。

中高一貫校受検はやはり早めの準備が必要だと思うので、出来るだけたくさん問題を解いて問題にも慣れておくことが大切かと思います。

子の意向を尊重し、受検に関する様々な選択をオープンに話し合っ一緒に決めて進めてきたことが自立心の確立に役立ち、合格に繋がったと考えています。

受検勉強のために通塾することも必要だとは思いますが、小学校の報告書も関わってくるので、小学校生活での着実な積み重ねや家庭生活での実体験など小学生だからこそできる経験も大切だと思います。

中学校受検対策で通った塾は、私立中学校向けではありましたが、九段中の過去問を 5 年以上解き、九段中が求める生徒像を親子で考え、何度も話し合いました。おかげで、学校に対する強い気持ちも芽生え、入学出来る事を本当に楽しみにしていました。

模試の判定に一喜一憂することなく最後の最後まで努力し続ける事が良い結果を生むと思います。

自分で考え、行動できることが入学前も後も大切だと思います。

本人が通うので本人に志望校を判断させ、目標が決まったらそれに向かってひたすらサポートをしました。

本番の受検でも、過去に受けた中高一貫校模試の結果と同じくらいの割合で適性 1、2 とも点数が取れたため、模試を受けて苦手を克服するのが良いと思う。

本人の意志がなければ、最後まで頑張り抜くのが難しかったです。早い段階でいろいろな学校を親子で見学して、先を考えた行動を心がけるように伝えました。

5年生から、都立公立一貫校の塾に通いました。九段中等に特化した勉強は、6年の2学期から塾の先生に相談しながらすすめました。過去問は、過去5年分は何度も解きました。コロナ禍で子供と学校に見学に行く機会がなく、子供が受検を実感する機会がありませんでしたが、学校を外から見に行ったり個別相談に参加したり、できる限りのことをしました。また、受検期でも、小学校の行事や、学校外の活動は、積極的に参加しました。

本人が本当に行きたい、やりたい事がある学校で決めました。

一日一作文などと、作文をたくさん書いていくと自信に繋がります。努力は必ず裏切りません。目標に向かって頑張ってください！

公立と私立の良さを併せ持った素晴らしい学校だと思います。

とにかく、学校へ足を運んで先生方や生徒の雰囲気を見て下さい。そして、行きたいと思える学校に出会ったら最後まで諦めずに努力して下さい。合格・不合格に関わらず必ず子供達の力になります。受検を通して色んな成長に感動させられます。

ホームページの動画を見ること。中学校生活を夢みて、勉強にはいりました。

将来の夢や目標をもつことが主体的に学習に向かう姿勢につながると思います。

諦めないで、最後まで挑戦して下さい。

4年の頃九段祭に行って、学校の雰囲気を感じることができたのがよかった。学校見学は早めに動くといいと思います。受検準備は、専門の塾にいったってしっかり対策を行い、自信を持って取り組めたのがよかったです。

本人自身で、目標に向けてやるべきことをやる大切さに気づくことが一番だと思います。そのための手伝いを親はただけです。

私立中受験の塾に通っていたが、九段対策の講座も受けることで、どちらも合格することができた。両方の対策はとても大変だけど、諦めずにがんばってほしいと思う。

九段の適性検査は、傾向がないと言われています。過去問だけでなく、様々な適性検査の問題をたくさん演習しておく、本番の試験で慌てることなく挑めると思います。

どんな学校であるのかを、在校生の方や親御さんから聞ける機会があると、不安などが解消されて、より、受検に向かいやすくなるのではと思います。九段独自の問題に、慣れることも大切だと思います。

学校の選択については、本人の希望を優先しました。受検勉強だけでなく、習い事(ピアノ)も続けつつ、小学校の授業や学校行事にも意欲的に取り組みました。ストレスをためず、本人のペースで進めてくれたのがよかったのだと思います。

公立校対策にこだわらず知識・論理的思考力・記述力・計算力を高めていくこと、小学校生活を大切に過ごすことが大事だと思います。

そもそも受検したのは、九段での学校生活を心から楽しむ勉強好きの上の子を見ていたのがきっかけではありました。ですが小学校のクラスメート、特に男子にたびたび嫌がらせされていたこともあり、本人の第一志望は4年生の頃からずっと私立の女子校で、塾も私立対策のところにしかなっていませんでした。その後小学校は6年の12月からまったく行かなくなり＝調査書によいことが書かれていたとも思えず、九段の過去問は2月2日に前年度を一周したのみ。「もう私立から合格もいただいているし、受検しなくていいのでは？(＝受けても受からないだろうし)」と保護者として思ってもいたのですが、「せっかくなので記念に受けたい、もう二度と受検できないし校舎内にも入らないだろうし」という軽い気持ち・・・からのまさかの合格。その時点で既に、通う予定の私立に入学金を払い、制服の採寸まで済ませていましたが、その際に色々思うところもあり、上の子のときにB区分女子の合格の難しさを目の当たりにしていたので、辞退はもったいない……。最終的には、保護者の私が疑問に思うことに関して真摯に向き合ってくださった副校長先生を信じようと思い、入学手続き締め切り数十分前に、ようやく九段にしよう決めました。そんな動機や勉強での合格ゆえ、これを書いている4月7日現在も、親子ともに「私立の女子校を目指していたのに、当初の希望と違う公立共学の九段でよかったのか？」という思いは、実はまだ根強くあります。ですが同時に思うのは、学校を休みがちでも、調査書の内容に不安があっても、九段(公立)対策に特化していなくても、受検及び受検当日で問われる内容を確実に身につけていれば、道は開けるのではないかと。ということです。そして参考書でも塾でも学校でも家庭教師でも、親子ともども心から信頼できる、これさえあれば(いらっしゃれば)大丈夫という存在は持っておいた方がよいかなあ？と。ちなみに本人は、塾の通常授業と講習は一回も休まず、そこで出された宿題もすべて(時々期限を過ぎつつも)提出していましたが、小学校のそれは気持ちよいほどやっていませんでした。今拙文を読んでくださってい

る中には、九段を第一志望に考えていらっしゃる御家庭、それほどでもない御家庭、考えざるをえない御家庭、色々なケースがあるかと思います。第一志望からの合格が、受検生本人にも保護者さんにも学校にとっても、もっともベストで幸福な道だとは思いますが、保護者である自分自身、この度、入学することになった我が子や周囲の状況を見て改めて思うのは、インターネットで容易に見ることのできるキラキラしたサクセスストーリーは全体のごく一部で、何かしら後悔が残ってしまうのが現実だなということです。そんな現実の中でも、それぞれの御子様が better な道に進まれますよう心から願っています。

勉強だけでなく小学生のうちにしか経験できない体験をしておくことが第一だと思います。理科と社会の学習については私立向けの内容も中学に入ってから貯金になると思い五年生から詰め込みを始めました。知見が広がりとても良い刺激になったと思います。九段の問題の傾向を意識した練習は6年の夏過ぎには始めると良いと思います。

勉強に関しては子ども本人に何をいつやるかを考えさせて、(過去問は10年×2回はやるなど) ゲームやテレビも最後まで禁止という形はとりませんでした。親は口出ししたい気持ちはいつもありましたが、変わらない生活をする中でリラックスして試験に挑めたのかなと思っています。またコロナ禍で学校イベントがありませんでしたが、外観だけ見に行ったり、YouTube で先輩方の学校紹介を見たりしてモチベーションをあげるようにしました。

家庭学習中心で受検しました。家庭で出来る経験を沢山しておくことが大事だと思います。

受検はとてもたいへんですが最後まで諦めないことが大切だと思います。

メリハリつけて勉強し、分からないことがあったら必ず先生へ聞くようにしていました。色々な場面で本物を体験し、挑戦する機会が多いのは学校選択の決め手となりました。後は本人が強い希望を持ち続けた事です。最後までしっかり頑張ってください。

小学6年の春に、本人の希望で、受検への準備をはじめました。父親自身が私立中学を受検した経験から、「とてもこの時期では間に合わないし、君が思っているよりも覚悟のいることで、賛成できない」旨を何度も伝えましたが、本人の熱意に負け、また、コロナで時間も十分にあったこともあり、「九段以外は受けない」(滑り止めや、練習受験した私立には進学しない) ことを条件に勉強することを許しました。学習は自宅の荷物部屋に机を置き、ひたすら塾のテキストを繰り返し解きました。解けない問題、理解できない問題がなくなるまで、書きなぐるように繰り返しノートに解いていきました。約10か月で50冊も使ったようです。どの問題が出来なかったか、やり直すべきかは、親が把握し本人と勉強計画ノートを作って、日々確認しながら進めていました。塾は当初、自宅学習するためのテキストを入手す

るために所属したようなものでしたが、2学期も後半になると、塾の友達と励まし合い、模試の成績を競い合い、切磋琢磨する良い関係を築いたようです。模試で解いたことのないパターンに出会うと、その分野をやり込んで、苦手がないように潰していきました。親は本人の意思が継続するよう、なぜ九段に行きたいのか、どうして九段でなければいけないのか、という作文を毎週本人に求めました。当初は意図していたわけではありませんでしたが、結果的に、その作文はそのまま志望書に書き込むこととなりました。春の時点では、帯分数の通分さえ危なっかしい状態でしたが、10 か月弱での学習で合格を頂いたのは、結局本人の強い意志あってのことと思います。強い意志が、濃度の高い勉強時間を生み、それが結果に直結したと思います。「6年の春から受検なんて無理だ」と危うく子どもの可能性を潰しかけていたことを恥じています。

適性検査のため何が結果に繋がったかはわかりません。受検準備は大変だと思いますが、子どもの気持ちや体調に気を付け、時には息抜きをしつつ、日々を積み重ねていってください。子どもの様子を観察して、塾を利用して、相談して乗り切りました。新聞を読むことや日常での小さな体験も大事だと思います。頑張ってください。

御子様の個性に合わせ、長所を無理なく伸ばす事が肝要と思います。

様々なことに興味関心を持ち、自分で調べたり考えたりする機会を持てるよう、日常会話の中できっかけを与えることを心掛けました。また、最後の1年間で適性検査対策に専念できるよう、5年生までに基礎的な学力をつけることを目標に、家庭学習に取り組みました。

学校訪問時に雰囲気良く、施設も充実していたので志望しました。

毎日コツコツとやり続けることが大事です！

本人の強い希望で、九段中等教育学校を受検させていただきました。学校を知るうちに、教育方針や校風が子供に合っていて、子供の個性や可能性を伸ばしていただける環境なのではないかと感じた為、賛成し応援しました。塾では苦手な分野を詳しく指導いただいたり、問題集や過去問をたくさん解きました。それに加えて、小学校での学習や生活も大事にしました。親も子も、とても良い経験だったと思います。大変な時もありましたが、1番大変な思いで頑張っているのは子供です。子供を信じて応援し続けること、結果ではなく過程を褒めてあげることが、本人のモチベーション意地に繋がったのではないかと思います。頑張ってください！

記述の多い私立を第一志望にしていたので、その勉強が九段対策にもなりました。まだ入学

して数日ですが、自分でスケジュールや持ち物、タスクを管理するための手帳を配られるなど、自立を助ける丁寧な仕掛けがあり、入学して良かったと改めて思っています。

本人が中学へ行ったら、やってみたいことがたくさんできそうな【九段中】を第一志望に、5年生から塾へ通いました。私立中と公立校との勉強の両立は大変そうでしたが、本人の意志が強かったので、体調管理に気をつけて全力で応援しました。私立中向けの塾でしたので、6年の後半には外部模試も受けてみました。本人の九段中に通いたいという強い意志が、合格へ導いてくれたのかなと思っています。入学して間もないですが、新しく友人もでき、笑顔で登校する姿をみて、大変嬉しく思っています。受検生のみなさん、保護者の皆さま、応援しております。

五年生の頃から会場模試を多く受け、慣れない場所で初めての問題を解く練習をしました。普段は塾の勉強も取り組みましたが、学校生活を大切にしよう過ごしました。

学習習慣をつけるため、また、中学受検も視野に入れ、低学年から通塾させていました。6年生の夏まで志望校が決まらず、高校受検に切り替えることも考えましたが、兄（今年度後期課程）が九段に通学していることもあり、それからは塾内の九段対策のゼミや過去問などの講習を受講させ、受検に臨ませました。九段では特に英語教育が充実しているようで、兄はそれなりに日常会話も可能だということらしいです。小学校では授業でのみの英語学習でしたが、どのくらい伸びるのか期待しています。

希望学校選択の際には可能な限り、子供と一緒に訪問し、学生達の表情、行動を見て感じて下さい。学習に関しては本を多く読むとすべての教科にプラスになると思います。難しい本ではなく子供が興味を持つ分野で良いです。出来れば親も同じモノを読み、お互いの感想を伝え合うと気付きが増え、楽しくなる様でした。塾以外の習い事を辞めずに、気分転換に通わせた事はストレス発散になった、と本人も言っていましたので、好きな事は続けたら良いかと思っています。

早めに検査の準備をした方が良いと思います。学校も疎かにならないよう注意してください。

小学校生活では、学習・委員会活動など、意欲的に取り組むことを大切にしました。家庭では、読んだ本や身の回りの疑問、時事問題について日常的に家族で会話するなど、自分が感じたこと、考えたことを伝え合う機会が多くありました。受検対策としては、私立対策で4教科の知識を身につけ、6年の8月後半から適性検査型の過去問に取り組みました。九段の過去問は10年分を2巡、特に作文対策を徹底しました。他校の400字程度の過去問も取り

組んでいたため、試験本番、傾向が変わっていても落ち着いて臨むことができました。コロナ禍で学校訪問の機会は少なかったのですが、学校紹介動画や生徒主体のオンライン学校ツアーは、学校の雰囲気を感じとることができる貴重な機会でした。

学校選択は、小 4 時にいくつかの学校の文化祭を見に行ったあと、九段中等に行きたい！と本人が言い、それから一度もブレることなく九段を目指していました。学習については、4 年までは市販のテキストや某大手学習塾のテキストを取り寄せ、自宅で親子で勉強しました。5 年からは都立中専門の塾に通いました。塾の方針が、「自学自習。保護者は口を出さないように。」でしたので、勉強方法や対策などは分かりません。ただ、復習ノートはしっかり作っていたようです。生活面では、親子で何度もぶつかり合いましたが、その度じっくり話し合い、方向を見つけていきました。小学校では、代表委員長を務め、リーダーになるイメージを作っていたようです。習い事（ピアノ・バスケット）は辞めませんでした。それが気分転換になったようです。入学してまだ 1 週間ですが、九段中等の教育内容が豊かなことがだんだん具体的に見えてきて、そういう学び舎で過ごせる我が子をととても羨ましくも思えます。

私立との併願は大変でしたが、塾の先生に過去問添削をして頂き、記述力を高めることが出来ました。

まだ入学して間もないので、分かっていない部分もあるのですが、校則などは、区立中学校に近いなあと感じます。ただ先生方の熱意と丁寧な指導は、そういう校風ゆえだと感じるので、ありがたいです。受検対策については、私立中向けのコースには通っていましたが、特別なことはしておらず、うちの子は作文などが比較的得意でしたし、公立向きかとは思っておりました。

6 年生冬まで私立対策のみを行い、冬休みから公立中高一貫校の過去問をやり始めたため完全に出遅れていましたが、適性検査Ⅲまでありすべて独自問題の九段の傾向が、私立専門受検生のうちの子には結果的に合っていました。最初に過去問を解いたときはぼろぼろの得点でしたが、「なんかおもしろい！」という感覚をつかんだようで、2,3 年分と解いていくうちに急に得点が上がり、数年分を解き終わった受検直前期にはある程度取れるようになっていました。この感触を得たのは 1/30 でこの時点では合格できるとは思っていませんでしたが・・・通っていた塾では公立中高一貫対策はなく過去問の採点のみでしたが、普段の授業で深く考えさせたり書かせる問題が多く、これが結果的に公立中高一貫校対策にもなっていたようです。記述中心の私立を志望している受検生に、九段の問題はぴったり合っていると思います。

私立向けの塾に通いながら、6年の夏明けから九段向けの講習にも通いました。それまでの読書習慣が大切ではないかと感じています。とにかく、各適性検査は問題が長いからです。

19回生から本校を受検するために勉強した内容や方法について、「これをやっていてよかった!」と思ったものを紹介してもらいました。是非、参考にしてください。

過去問

声に出して教科書などを音読することでさまざまな知識を習得することができたということ（社会などの知識）

作文を書くことを重点的に学習しました。また、試験が近くなった時期には、計算問題を沢山し、必ず解ける問題を取りきることを意識しました。

作文。

過去問を繰り返しやったこと。

作文を書くことや、適性検査2と適性検査3をたくさん解いたこと。

九段の過去問を解いて、塾の講師に詳しく教えてもらいました。

ノートに、単語や意味などを、まとめていつでも見れるようにした。

過去問をなるべくたくさん解くこと。記述は、塾の先生に採点してもらうこと。時間配分をよく考えること。作文を書くこと。

作文の書くスピードを上げる練習。

大切な部分をノートに書いて繰り返し読むこと。

過去問題集を繰り返しやること。

新聞を読む。

内容、割合計算を完璧にする方法、とにかく割合計算をしました。

作文の書き直しを何度も繰り返して、より良いものを書けるようにしたこと。

過去問を何度も解いた。

過去問をたくさん解いたことと、九段の問題に似た問題を解いたこと
過去問を解く。

塾の授業後に毎回書く復習ノート。

塾の教科書を一通り解きなおし、わからない問題がなくなるまで解いた。

過去問を寝る前などに読んだりしていたことに対して「これをやっていてよかった！」と思いました。

毎日ドリルに取り組む。

たくさん適性検査1の過去問を解き、記述問題や、作文問題、ぬき出し問題などを解けるようにした。

やった問題を解説してみるノートを作って問題を復習する。

問われていることや要旨を簡潔に答えられるように、新聞やニュースの内容をまとめる練習していました。

塾での復習ノートでは、間違えた問題、その理由、自分の言葉に直した解説をすべて文字に起こしていました。そのようにすることによってより頭に問題の内容が入りやすくなりました。

問題の解き直しをたくさんしていて良かったと思った。また、九段の過去問だけでなく様々な問題に触れてきたので、本番も見ただけの問題にあせらず対応することができた。

算数は基礎的な計算、場合の数。国語は作文練習。理科はてこなど基礎的なこと。社会は資料の読み取り。

九段中等教育学校の過去問題集を解く。

塾で作文の練習をしていてよかった。銀本(時間配分や応用問題)を練習していてよかった。

基本的な内容を復習していて本番で役にたった。

私立の勉強しかしていなかったが、二月二日の午後に昨年の過去問を解いておいたこと。
読書で長い文章を読むことに慣れておくと適性検査 1 の読解が解きやすくなる。

学んだことを親に説明して、説明力を上げた。

算数の苦手な部分の練習問題。

本を読んで文章読解力をつけておくこと。

過去問の解きなおしをして、よかった。また、解きなおしノートをきれいに書いて、見直しやすくした。

問題の傾向をちゃんと掴んで勉強をする。(自分はずっと過去問を解いてました)

僕のイメージだと、九段中等教育学校の適性検査の問題は少し独特な感じがして、それに合った回答、考え方というのを意識して勉強した。

間違えたところの復習をする。何がいけなかったかというのをしっかり理解して次に生かしていく。

毎日コツコツ諦めずに勉強していたおかげで諦めずに粘る力がつき、入試の問題で分からないところがあってもあきらめずに解くことができたことです。

過去問を分析して、出題傾向をつかんだこと。

塾の授業やテストの復習ノートをしっかり書くようにした。

塾で配られた、「日々の計算」という 10 問の問題が書かれたものを、毎日時間を計って取り組んでいました。そして、計算のスピードを早くすることができました。また、復習ノートを作り、間違えた問題などの解き直しをして、似たような問題が出た時、二度、間違えることを減らすことができました。

最後まで諦めずに勉強をすることが一番です。ほかにも、基礎的な内容を完璧になるまでこなし、受検する時間に頭が回るように朝 5 時に起きて勉強したりしていました。過去

問を本番と同じ環境で繰り返して、動揺しないようにするのも大事です。

過去問を何回も解くことです。

毎日算数の問題を 10 問程度解くことを繰り返していくことや新聞を毎日しっかり読み社会を知ることが大切だと思いました。

塾の公立中高一貫校の作文講座を受検前の 3 か月取り組みました。講座では 400 字の記述を練習しましたが、今年は作文の文字数が 90 文字も増えていたのでやっていてよかったと問題を見たときに思ったのを今でも覚えています。

冬休みの一日 10 時間勉強。

過去問演習を繰り返し行ったことが有効だったと思います。また、作文を何度も起案して書き直す訓練も行いました。最後に、朝日小学生新聞を購読して世の中で起こっている事象を理解するように努め、本をたくさん読み文章を早く読む力を鍛えました。

本校の過去問を何度も解くことです。それに、受検のスケジュールになれる練習です。

九段の過去問を解いて、分からなかったところを何回も解き直した。

何度も過去問や適性検査を受けたため試験本番をリラックスして受けられたこと。

算数の順番に考えていく内容と作文の書き方やルールです。

過去問を解いたこと、受検勉強を始める前からもコツコツ宿題などをやり続けていたことが大きかったと思います。

作文の練習と、字をきれいに書く練習。

塾の授業で取り扱わなかったテキストのページに付箋をはり、ランダムでその問題を解くことで、様々な問題に触れることができた。

文章を書く力をつけておいてよかった。

間違えた問題をそのままにしないで、どうして間違えたのか、どうすれば次から間違えないかをしっかり考えたこと。

自分の苦手な部分をまとめて問題のポイントなどを書き込んだノートを読んだり解いたりした。

過去問を繰り返したたくさん解いたこと。

作文を書くことが嫌でも、頑張ってたくさん書き続けたこと。

塾の自習室をほぼ毎日利用して、集中して勉強したこと。

家のテレビの位置を変えて、家で勉強している間はテレビを見れないようにしたこと。

算数の分からなかった問題を見直してできるようにしたこと。

過去問をたくさん解いて試験の問題に慣れたり、作文や長文をたくさん書いたこと。

国語、作文、計算、過去問。

過去問題集を繰り返し行った。

九段中等教育学校の適性検査集のような本を使って勉強しました。

一度解いた問題は解き方を覚えておくことで似たような問題が出たときにスムーズに解くことが出来ました。

本校を受検する為に勉強した方法とはとにかく色々な問題に取り組み、一つでも多くの解き方を自分のものにすることです。

長文記述の対策として塾でやっていた、自分の経験をお題にあわせて長文（字数指定）で書くというものです。そのおかげで本番では記述問題もよく書けたと思います。

間違えた問題の間違えた所を重点的に復習する方法。

本や新聞を読んで文の読むスピード上げたり、世の中の現状を知ったりしたこと。読書と作文の練習です。読書をすることで多くの表現方法や、ものの見方等を知ることが出来ました。すると、表し方に幅ができるので、問題を解くうえでとても役に立ちました。また、作文の練習をすることで、文章で答えることの多い適性検査の問題に、迷いを最小限に

して解答できたと思います。

九段のいろいろな動画をみること。九段に入りたいという気持ちがわいてくるからです。

受検勉強は過去問しかしてなかったですけど、事前に「こういう傾向の問題が出るのか」と分かったのによかったです。

過去問です。

適性検査は特殊なテストだから何度も過去問を解いて、慣らしていった。

9月頃～受検直前まで色々な都立中等一貫教育校の過去問を解いた。

「毎日、漢字・計算・復習などをコツコツ続ける」など当たり前のことをやること。

九段中等教育学校の過去問題を解くこと。

模擬試験を受けること。"

問題形式が変わっても対応できるように九段の過去問だけでなく、他の学校の過去問も解いた。(例：作文の文字数は例年は240～260字でしたが、私が受検した年は280～340字に増えました。しかし、白鷗などの作文の文字数が多い学校の過去問を解き、文字数の多い作文に慣れていたため、焦らず対応できました。)

比の勉強。

勉強時間を朝型に変える。塾から帰ってきたらお風呂と歯磨きだけしかせず、すぐに寝て、朝早くから勉強を始めること。

塾で九段中等教育学校の作文対策をして誤字脱字を防ぐ癖や文の構成をよく考える技術が身に付いた。

文章を読み取ってそれに対して自分で考えたことを文にまとめるということです。

適性検査1では、筆者の意見に対して自分の意見は何なのか、そして、その根拠を書くということをやりました。

塾での宿題の復習ノートがとても役に立ちました。また、過去問を過去 20 年分を 3 周やったことで、九段の問題形式に慣れることができました。

他にも、作文の解きなおしを何遍もやることで、作文を書く力がついたと思います。

やっていてよかったものとしては、読解力が高められる読書が挙げられる。受験勉強の休憩時間には、よく音楽を聴きながら小説を読んでいた。

過去問題集を解くことと、10 問ほどの問題が 1 ページに書かれた問題冊子を 1 日 1 ページ解き、その問題冊子を繰り返し解くことです。

適性検査 1, 2, 3 全ての過去問をやったこと。

九段中等教育学校の過去の入試問題を解いて急に作文のお題を言われ、それにこたえる力をつけたり解答欄の形を確認したりすることです。

練習問題で間違ったところをすぐに直して類似の練習問題をやって間違ったところを直した。これを何度も繰り返して勉強するとある程度パターンが覚えられてだんだんスムーズに問題を解けるようになります。

塾では勉強、家では遊ぶと、場所によって行動のメリハリをつけることで勉強の効率を上げた。

間違った問題があったら、その日のうちに解きなおし、24 時間後に復習し、1 週間後にもう一度解きなおす。

作文を何回も書き直したこと。

過去問を解いて時間配分の仕方を先に学んだこと

鬼ごっこ(町や河川敷での広範囲)。頭だけでなくしっかり体を動かしたこと。

社会の記述の問題を何回もやっておいたのがよかったと思います。記述が僕は苦手だったので何度も繰り返したことによりそれを克服することができました。また、重要な部分を赤で書いたりして分かりやすくしたり、読みやすくしました。さらに、国語では作文の書き方のポイントをノートに書き、作文を書いているときにそれを意識してやるようにしていた

のがよかったと思いました。

過去問をしっかり繰り返し、わからない問題がないようにする。

4年生の時の知識が受験に受かるカギだと思いました。

九段中等教育学校の過去問だけを練習するのではなく他の問題を解いておくと、入試問題で今まで出たことのない系統の問題が出て焦ることなく解くことができた。

身近にある様々なものに興味を持ち、ノートなどに調べてまとめること。
本をたくさん読み字数は問わず、文章にまとめること。

小学校の勉強の復習をすること。

知識を頭に詰め込み過ぎず、文章を書く練習をしたことです。

復習の時に、問題の解説を見ることなく、解いた経緯をすべて文章で説明しました。実際の入試で記述の問題が過去問よりも、多く出たのでとても役に立ちました。

物語文・説明文の読解問題。

勉強は夜ではなく朝やったほうがいい。

受験が近づいたら難しいことをやらずにこれまでの復習や基礎の確認などをすれば気持ちも落ち着く(焦ってる時も同じ)。

作文の練習や時間内でできるだけ問題を解けるようにするための工夫。計算問題を毎日とき、スピードを速めるようにした。

作文をよく書きました。それから、適2の社会に備えて時事をテレビのニュースを見て知ったり、新聞を読んだりしました。理科も重点的にやることをお勧めしたいです。

作文は適性検査傾向1の作文が6年程200文字程度だったが、さらにまえの4年間計10年間分の過去問をやっておいたことで、傾向がかわってしまっても、慌てずに問題を解くことができました。

適性検査 2・3 は過去問題をできる限り家で本番を意識して解いてみる。実際に試してみることで、「本物から学ぶ」ことができたため、先を読む力や、論理的思考力が養われたとおもいます。

過去に出題された問題をたくさんといて、何度も復習したこと。

九段中等教育学校以外の学校の過去問を解くこと。

適性検査に対応した塾に通ったり、適性検査 1 の文章題を効率よく進めることができるように、小説をたくさん読んだりしたこと。

過去問題は特にやっておいて良かったと思いました。私は、九段中等教育学校専門塾に通っていたため、宿題で過去問題を解き、授業で解説してもらっていました。まず、過去問題は 3 周以上やりました。また、分かる問題も時間が無くて解けなくなってしまうのが一番もったいないので、5 分考えて分からなかったら飛ばし、最後に答えを読み込んで分かるまで解くということを心掛けていました。他にも、解き直しノートを作って、自分がどうして間違えたのか、次は間違えないためにどうしたら良いのかを考えることも良いと思います。

私は先に他の学校を受験し、試験当日の大まかな流れや雰囲気に慣れることができたため、九段中等教育学校の受検の時はあまり緊張せずに、落ち着いて試験に臨むことができました。

試験当日は朝早めに起きて、朝ご飯をきちんと食べた後、簡単な計算問題や単位の確認、漢字の書き取りなどをして頭を目覚めさせると良いと思います。

本番では、受検を楽しむのが 1 番良いと思います！緊張すると思いますが、今まで努力してきたことを全部出し切れるようにリラックスして頑張ってください！

作文を書く練習をしていたことと、小学校の勉強をちゃんと復習をしていたことです。また普段からニュースを見ていて良かったなと思いました。

作文が苦手だったので、直前に母の協力で作文特訓をしました。

本を沢山読み、感想やその理由などを親と話し合うことで、読解力や語彙力、作文力を培えました。

また、受検直前でもなるべく学校を休まないようにしました。そうすることによって、規則正しい生活ができ、メンタルも比較的安定した状態で受検に臨むことが出来ました。

毎日の計算。

過去本を何度も復習したり、一週間前に自分の苦手とするプリント（問題）をまとめて解いたのがよかった。

過去問や、日曜特訓で、間違えてしまった問題をノートにまとめて、1週間後や、2週間後くらいにもう一度やり直した。そして、過去問を入試の前に解きなおした。他にも、九段の問題ではないものでも同じようにできるまでやり直した。

過去問をたくさん解いて、解説を確認し、もう一度過去問に取り組むことでよい答えの形を覚えた。

漢検をやっていてよかった。

私は特に過去問の問題集を解いていました。週に一回、一年度分の過去問を解き、塾で答え合わせと解説をやってもらっていました。過去問をたくさん解くということも大切ですが、解いた後に間違った問題の解説を読み込み、模範解答を覚えることを繰り返すことで、どの問題も、限りなく模範解答に近い解答が書けるようになりました。そうすると、減点されることも少なくなり、安定した点が取れるようになりました。

新聞の内容を 120 文字程度にまとめること。

過去問をどんどん解いて、九段の問題に慣れること。

千代田九段中等教育学校では、普通の私立中学とは少し違った、「応用問題」がよく出る。しかし、その問題のほとんどは、「基礎」がしっかり固まっていれば解ける問題だ。また、「記述問題」が多く出る傾向がある。資料から情報を読み取る能力をつけると解きやすい。

過去問、速習と完成。

九段のテストは適性検査 1，2，3 に分かれているのでその適性検査ごとに勉強しました。また、過去の問題を解いていると、作文の字数制限が二百字であることが多かったのですが、今年のテストでは三百字だったので驚きました。しかし、二百字だけでなく、三百字や四百

字、五百字の作文も練習していたので、傾向が変わっていても安心できる勉強をするべきだと思いました。

過去問をよく解いておくこと。

間違えた問題の解きなおし＋なぜ間違えたか、次からどうすべきか考えることです。

過去問題集(赤本、金本など)。

作文の練習。

どのような問題が出るのか自分で考えること。

入塾し、弱点や得意分野を見つけられたこと。また他の人と学力を競い合えたこと。

計算の練習。

復習するためのノートを作り自分が間違えたところを見直していた。

九段の問題は、記述が非常に多いので、過去問をやっていてよかったと思いました。

しっかりと自分でくだんの過去問を解いておいて良かったと思いました。また、6年生から塾に通い始め、しっかりと復習できるテストなどで自分の苦手なところを得意にすることができました。

塾の先生に教えてもらったダーツの問題の復習。

ケアレスミスをなくすために基礎の問題を解いたこと。

九段中等を受検するために作文を何度も書きました。作文力は普段の会話や文章を書くときにすごく役に立つので、勉強してよかったなと思いました。

毎日、少しの計算を欠かさず、しっかり行う。そして、間違えたところは先生などに聞いてわかるようにする。

過去問をひたすら解いたこと。

とにかく読解問題を解く。

小学一年生の頃に天才頭脳ドリルというドリルで適性検査に方向性の似た問題を楽しんで取り組んでいたことと、睡眠時間を管理したこと、気分によって勉強する内容を変えていくことです。

過去問をたくさんやった。

作文を完璧にするまで書いたり、苦手なところの克服のためにその単元を何回も復習したりして苦手な箇所を克服した。

まず、塾などで模試をできるだけ多く解くことです。

そして、受検日の10日前くらいから過去問を10年分解きまくるということです。

また、九段の問題の傾向をつかむことです。

過去問をひたすら解いて復習することや、塾で行われる合宿や特訓（苦手なもの中心で）に積極的に参加し、苦手分野を潰していくこと、徹底的に復習すること等をしてきて良かったと思います。

いままで解いた問題の解きなおし、過去問演習、作文の書き直し。

過去問や塾で出された予測した問題をやること。

実験の過程を論理的に説明すること。

数学などの勉強が大切だと思いました。特に理系や文系の記述が大切です。

過去問をやり、本をよく読んだ。

適性検査の文章の対策で日頃から本を読むようにしていた。

過去問の出題傾向の分析。

模試の復習ノートを作ったこと。

過去問題集。

日曜特訓。

作文の対策をしっかりやったこと。

過去問などをしっかりと時間をはかって解き、まるつけしてやりなおしをすること。

九段や九段以外の過去問を解くこと。

過去問から傾向をつかむことが大切。

過去問をたくさん解き直していて良かった。

銀本を解いて、塾の先生にこたえあわせをしてもらい、解きなおしすること。

直前まで気を付けるポイントや、家族からのコメントを見ていたこと、また、よく間違えるポイントをしっかりと復習しておいたこと。

学校、授業での復習や、計算問題を毎日解いたことがよかったと思います。

塾の適性検査。